聖母眼科（SANTA MARIA EYE CLINIC）様

医療現場のコミュニケーションを支える最新の高感度カメラ MKC-704KHD

瀬戸内海に面し、瀬戸大橋の四国側玄関口に当たる香川県坂出市。JR坂出駅から徒歩圏内に位置する聖母眼科様は「最善の医療を最適な環境のもとで」をテーマに患者様が安心して治療を受けられるよう最新の医療装置を揃えるとともに医療技術を研鑽し続け、地域医療を支えられています。
聖母眼科様は、かねてより池上の手術顕微鏡用カメラを導入されておられましたが、今般、2部屋ある手術室のカメラを最新の高感度4K出力カメラMKC-704KHDに更新されました。

先端の医療技術を駆使し数多くの眼科手術を実践するとともに一人ひとりの患者様を暖かく見守られている聖母眼科院長永原國宏様にお話を伺いました。

永原國宏院長　略歴

昭和52年	東邦大学医学部卒業
同年	慶応義塾大学医学部眼科学教室入局
昭和59年	虎の門病院眼科勤務
平成元年	聖マルチン病院、聖母眼科勤務
平成 5年	聖母眼科医院院長
同年	ASCRS シアトルフィルムフェスティバルにてグランプリ獲得
平成 6年	フィルムフェスティバル部門賞受賞

—永原院長の眼科医としてのご経験をお聞かせください。

大学を出て慶応義塾大学の医局で白内障手術で当時主流の術式（基礎）を学びました。その後、虎ノ門病院や聖マルチン病院で超音波による乳化吸引手術（Kelman phacoemulsification：KPE、後のphacoemulsification and aspiration：PEA）の経験を積み重ね、平成5年に聖母眼科院長に就くまでは東京の数多くの病院でPEAを教えてきました。今、聖母眼科では、白内障手術を年に1800件以上行なっており、トータルすると7万件以上の手術を行なってきたと思います。世界中の眼科医療のスペシャリストと常に交流し、現地手術の経験をシンポジウムや講演会で発表もしています。また、当院の理念である「地方においても最新の医療を提供する」活動の一環として、年に4回ほど四国の各地で一般の人を対象にした市民講座も開講しています。

—「最善の医療を最適な環境のもとで」というテーマへのアプローチは、最新の設備を取り揃えていることからも伺えますね。

確かに日本に2台しか導入されていないナノレーザー白内障手術機器や散瞳せずに220度の範囲で眼底写真が撮れる設備など、数々の最先端設備を導入しています。しかし、医療技術や装置がいくら最新でも、それだけでは最善の医療とはいえません。症状も個性も異なる一人ひとりの患者さんが、それぞれに心やすらぐ環境の中で治療を受けることができて初めて、最善の医療ということができるからです。
ここは眼科医療の最前線です。ミクロの世界の眼科手術では、先端の技術と最新の設備、加えて、医療スタッフが培ってきた経験がなにより必要とされます。手術では、モニターによってご家族が手術現場に参加でき、患者さんご自身も術後に手術経過をDVD等で確認できるなど、患者さんだけでなくご家族も安心できる医療環境をつくっています。

裏面につづく

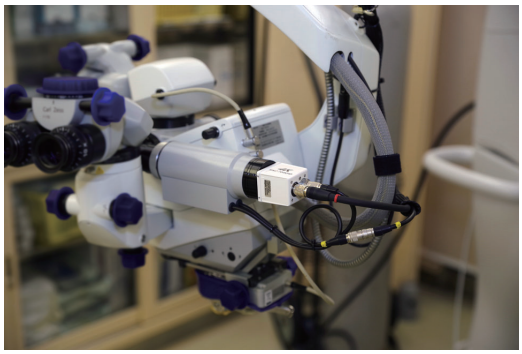
—そのようなお考えが、手術室をガラス張りにして、ご家族の方が手術の様子を見ることができる環境を作り出しているのですね。

カルガリーのDr.ギンベルの病院を訪ねた際、彼の手術室がガラス張りだったのを真似たのです。20年前にこの環境を作りましたが、このようなオープンな手術室は日本にはないと思います。手術中の顕微鏡カメラの映像をモニタに映し出し、スタッフが何をしているのか模型も使用しご家族に説明します。ご家族が見ていることで患者さんも安心するのです。

—今回、更新して頂いたMKC-704KHDもお役にたっていますか。

平成19年に池上のカメラを導入して活用してきました。今回、2室ある手術室のカメラを更新して感じたのは、従来のSDからHDに変わって画質が良くなったのは当然なのですが、その感度に驚きました。眼科治療は患者さんの眩しさへの負担を考えます。強い光は避けなければならないので、自ずと暗い環境で手術を行なうことになります。そうなると、スタッフはモニタを見てもよく見えないのです。ですが、今回のカメラは感度が違う。スタッフも何をしているか、はっきり判るし、鮮明に記録できる。当然、手術室の外で見守るご家族がご覧になっているモニタにも手術の様子がくっきり映っているのでスタッフの説明も判り易いと評判です。「色」ということで言えば、池上の映像は自然な色。昔、他社のカメラを使用したことがあるのですが、一見、華やかなのですが、色のりが多すぎる感がありました。自然な色は、疲れないのです。
他の医療機器もそうなのですが、カメラの進歩も凄いですね。昔の医療用HDカメラはとても大きかった。今は、これほど小型化されて、明るさ、画質ともに申し分ない。技術はどんどん進歩していくと思いますが、現場を知り尽くしている池上は医療ニーズに応え業界をリードし続けて欲しいと思います。

ガラス張りの手術室。
ご家族は外のモニタでスタッフから手術の状況について説明を受ける。



手術顕微鏡に取り付けられたMKC-704KHD

受付には Charles Fazzino の3Dアート、手術室ロビーにはマリア像、最後の晩餐の立体模型。患者様の癒しとなっている。

池上通信機株式會社　〒146-8567 東京都大田区池上5-6-16　URL:www.ikegami.co.jp

お問い合せは ●営業本部 TEL:03-5748-2211 ●大阪支店 TEL:06-6389-4466 ●名古屋支店 TEL:052-705-6521 または下記営業所へ
□札幌 TEL:011-231-8218　□仙台 TEL:022-292-2420　□福岡 TEL:092-451-2521

U423A199-SELF
(2019年9月制作)